

教育振興運動推進プラン(2024～2028)

令和7年度 全県共通課題実践事例

令和8年3月

岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課

目次

1 「家庭学習の充実」実践事例

タイトル	実践区等名	ページ
家庭学習の充実に向けた支援～「自学のすすめ」発行を通して～	八幡平市	4
学習習慣を意識づける空間づくり	葛巻町/町青少年育成ネットワーク	5
2025あかいしキッズ サマースクール	紫波町赤石小学校区	6
湯本っ子塾	花巻市湯本中学校区湯本地区教育振興協会	7
胆沢愛宕地区地域未来塾	奥州市	8
放課後子ども教室「夏休み！勉強会！」	金ケ崎町/全小学校区放課後子ども教室	9
放課後子ども教室×地域行事連携学習プログラム「平安スイーツを作ってみよう！」	平泉町長島小学校実践区	10
放課後の学習会 地域未来塾	陸前高田市	11
「情報モラル学習」と「メディアコントロールの実践」	釜石市大平地区実践協議会大平中学校実践区	12
講師を招いての放課後学習会	宮古市花輪中学校区地域学校協働本部事業	13

タイトル	実践区等名	ページ
チャレンジウィーク「家庭学習強化週間」	軽米町晴山小学校実践区	14
小中高生間の交流 小学生の学習や体験をサポート	九戸村九戸小学校区	15
ボランティアによる家庭学習の協力	一戸町一戸南小学校区	16
4泊5日程度の中期自然体験型の事業「通学合宿」	県立県南青少年の家	17
「家庭学習の充実」の下支え	県立陸中海岸青少年の家	18
体験活動と子育てのワークショップ	県立県北青少年の家	19
長期休みの宿題をがんばりたい子を応援する 夏休み・冬休みしゅくだいバス	県立県北青少年の家	20
通学宿泊合宿	県立野外活動センター	21
フリースクール・放課後児童クラブへのセット貸出	県立図書館	22

全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

「自学のすすめ」
バックナンバー
はこちら！→



八幡平市

家庭学習の充実に向けた支援
～「自学のすすめ」発行を通して～

家庭学習の習慣化と質の向上を図り、児童生徒の主体的に学ぶ力を育成するために、家庭での声かけや学習環境づくりなど保護者の支援ポイントを示した通信を発行することとした。

【対象者】

児童生徒の保護者

取組の内容

家庭学習の取組状況や好事例について、各学校から情報提供を受けながら、教育委員会が通信を企画・編集。学校を通じて全家庭へ配布するとともに、市のホームページにも掲載している。

学校では、通信を活用して、家庭での学び方を学級で指導したり、廊下に掲示したりすることで、家庭学習への意識を高めている。（写真は、中学校での廊下掲示）



【成果】家庭学習の意義や支援のポイントを家庭と学校が共有することで、同一歩調で子どもの学びを支えることにつながっている。学校からは、児童生徒の主体的な取組が増えたとの声が寄せられている。また、保護者からは、声かけの例などの具体例が書かれていることで、支援の方向性がわかりやすいとの声をいただいている。

【今後の展開】より多様な実践例の収集と紹介を進め、家庭と学校の連携を強化することで、児童生徒の主体的な学びを支えられるようにしていきたい。

全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

葛巻町/町青少年育成ネットワーク

学習習慣を意識づける空間づくり

普段テレビやインターネットを見ながら過ごしている子供たちが、自主的に学習に取り組むための環境を学校と家庭以外にも提供し、家庭学習の充実を図ることを目的として取り組んだ。

対象者：放課後に複合庁舎くずま〜る内のまなベース（公民館図書室）を利用する児童及び生徒（小、中、高校生）

【成果】宿題を終わらせてから遊ぶことが習慣化されてきた。静かな学習環境の定着により、中高生なども個別に集中して学習に取り組む姿が増え、学習に取り組む意欲の相乗効果に期待が持てるようになった。異学年の学習への取り組みの様子を間近で学ぶことができる。

取組の内容

- ①テレビの移動
- ②インターネットサロンの設置
- ③図書検索システムの導入
- ④図書の配置
- ⑤まなベースの利用方法の再周知

取組の事後

- ①音が要因となっていたテレビ音や話し声などがなくなり、注意がそれない環境につながった
- ②図書の配置の工夫や図書検索システムの導入、インターネットサロンの設置により、調べやすい環境が整った
- ③小学生から高校生までが同じ空間を共有することで、学習に対する姿勢や取り組み方を異学年から学ぶことができるようになった

「学習習慣を意識づける空間づくり」



宿題をしている周りの様子を見て、自主的に学習を始める児童たち

【課題や今後の展開】長期休暇などで初めて訪れる人や長時間利用する人が増えた時にマナーが乱れがちになってしまう。誰もが気軽に利用できるフリースペースではあるが、児童、生徒の学びの妨げにならない環境を提供していきたい。

全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

【紫波町赤石小学校区】

赤石地区教育振興運動実践協議会

2025 あかいしキッズ サマースクール

赤石小学校学校運営協議会において「学校支援ボランティア」の充実について熟議された際に、「放課後や長期休業中の地域での子供の学びの場の充実が必要」という意見が多くあった。そこで、これまで実施してきた「あかいしキッズ」の内容を見直し、中高生学習支援ボランティアも交えて家庭学習支援を実施することとした。

参加者：小学生3日間延べ42名、中高生ボランティア（専門学生含む）3日間延べ29名、一般ボランティア3日間延べ7名、講師・スタッフ3日間延べ10名

【成果】

- ・学校運営協議会で具体的な取組について「熟議」がなされたため、事業内容が充実した
- ・中高生ボランティアによる学習支援が充実し、参加児童の満足度が高かった
- ・午前中の家庭学習支援に加え、午後は様々な体験的な学びを地域の方々の支援により実施できた

「2025 あかいしキッズ サマースクール」

期間：令和7年7月28日（月）8月4日（月）8月19日（火）

取組の内容

- 第1回 7月28日（月）
10時～ 学習会
13時～ 英語体験（ALTの支援）
- 第2回 8月4日（月）
10時～ 学習会
13時～ 科学遊び（科学実験）
- 第3回 8月19日（火）
10時～ 学習会
13時～ リサイクルはがきをつくろう

取組の事後

- ①参加児童・ボランティアアンケート集計
- ②学校運営協議会で、取組成果の確認と協議
- ③2025あかいしキッズウインタースクールの企画



第1回（7/28）紫波町ALTによる「英語であそぼう」での学びの様子

【課題や今後の展開】

- ・今回は長期休業の家庭学習支援を実施し好評であったため、放課後学習支援についても、学校運営協議会で「熟議」していきたい
- ・参加児童が、今後学習支援ボランティアとして活動しようという意識を高めたい

全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

花巻市 湯本中学校区

湯本地区教育振興協議会

【湯本っ子塾】

【背景・目的】

誰もが落ち着いて家庭学習に取り組むことができる環境を整備することを目的としたもの。

【実施体制】

対象：小学生

★毎週 火曜日

地域ボランティア6名（保護者1名含）
児童86名（希望登録児童）

★夏休み（2日間）

中学生ボランティア（6名）
PTA社会教育部（4名）
児童34名参加（延べ人数）

・湯本小学校の全校児童166名であり、全校のおよそ半数が登録している。

【成果】

家庭学習に取り組む習慣づくりに役立っている。教室とは違う雰囲気子どもたちがそれぞれがコミュニケーションをとっており「湯本っ子塾」が放課後の居場所となっている。

【取組内容】

年度初め、夏の長期休業前に「湯本っ子塾」の参加者を募集している。同時にボランティアの募集も行っている。地域ボランティアは随時募集している。中学生ボランティアについては長期休業前に募集している。

平日開催日は、学校が終わった後、児童が活動場所の空き教室に集合し宿題に取り組み始め、ボランティアに丸つけをしてもらって帰宅する。長期休業中は、PTA社会教育部が主催し、中学生ボランティアの指導のもと80分の学習に取り組んだ。

ほろかご 放課後

ゆもと こじゅく つうしん

★湯本っ子塾 通信

火曜日 14:20~15:00 (1・2年生)
15:10~15:50 (3~6年生)

ふれあいの間

さん か しゃ ぼ しゅう

参加者募集

<おすすめ>
地域ボランティアの方々が学校に来て、学習の見守りや〇つけをしてください。

【日時】 毎週 火曜日 14:20~15:00(1・2年生)
15:10~15:50(3~6年生)

【場所】 湯本小学校 ふれあいの間

【参加方法】
①申込用紙に書いて、学校に申し込みます。
②参加できる日に、参加します。
※ 毎回、必ず参加しなければならぬわけではありません。

【お問い合わせ】 湯本小学校 副校長まで 電話 27-2525



中学生ボランティアの取り組みは以前から継続して行われています。高校の体験入学と重なるため1・2年生が参加の中心となっています。

音読や保護者の確認が必要なものは家で取り組むことになっています。自分で学習時間を決めることができるので、自由な雰囲気での学習に取り組んでいます。



【課題や今後の展開】

地域ボランティア人数確保と夏の暑さに対応できる場所（教室）の確保。

全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

奥州市

【1 タイトル】

胆沢愛宕地区地域未来塾

【2 背景・目的】

交通の便が悪く、自宅のみで過ごしがちとなる胆沢愛宕地区に住む中学生を対象に、自宅外での活動を促すとともに学習習慣の定着を図ることを目的としている。

【4 実施体制】

対象者：胆沢愛宕地区在住の胆沢中学校生19名
(うち参加者8名)
学習支援員：地域の教員OB(退職校長会)5名
協力：胆沢愛宕地区振興会、地域住民の方々12名

【5 成果】

参加した生徒や保護者から、未来塾に参加することでいつもより集中して学習に取り組むことができたという感想が複数あがっていた。また、学習支援員からも集中して自主学習に取り組む生徒が多かったという声があった。長期休業中の生徒たちの家庭学習の習慣づけのきっかけになる事業になっているのではないかと。地区振興会の体験事業を通して、学習面だけでなく、地域との関わりや体験から生活面での成長やコミュニケーション能力の成長の機会になった。

【3 取組内容】

「HOP! STEP!! あたご塾」

令和7年12月23日～令和8年1月6日の年末年始を除く6日間、午前10時～午後3時で実施。午前と午後それぞれ1コマずつ担当教科の学習支援員と統括の学習支援員がついて、学習の時間とした。基本的に自主学習の形で進めており、生徒が分からないところや質問があるときに学習支援員がサポートする。初日の午前中はオリエンテーションでアイスブレイクをおこなった。(県南青少年の家「出前講座」利用)最終日の午後は体験事業として胆沢愛宕地区振興会主催でポッチャをおこない、地域の老人クラブの方々12名と交流した。



学習

学習では、数学、理科、社会、英語の各教科の専門の学習支援員が生徒たちの自主学習をサポート。また、統括の学習支援員が毎日生徒たちの学習や生活全般のサポートをした。



体験事業

初日のオリエンテーションではアイスブレイクを行い、学習支援員と生徒たちが協力して取り組んだ。最終日の体験事業では老人クラブとポッチャを行い、地域との交流する機会にもなった。

【6 課題や今後の展開】

本事業の存続を望む生徒や保護者の声がある中で、対象生徒の人数が年々減少している。少ない人数の中でも参加する生徒の割合が増えるよう周知の方法を工夫するほか、引き続き中学校や地区振興会の協力を得ながら事業を実施していきたい。

全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例



金ケ崎町/全小学校区
放課後子ども教室

放課後子ども教室

「夏休み！勉強会！」

中高生がスタッフとなり、小学生の勉強をサポートする取組。

『「できた」「わかった」の経験』や、『先輩との交流による、少し先の未来の想像』が、学習への興味と意欲につながる機会と考え取り組んでいる。

対象者：1～6年生の児童（16名）

【成果】 参加した児童から「勉強が楽しかった」という感想もあり、勉強することに対する意欲向上となった。また、普段はできない中高生との交流をとおして、目標とする人物像を具体的にイメージする機会とすることができた。

「夏休み！勉強会！」

期間：令和7年7月31日(木)

取組の内容

- ①夏休みの宿題や自主学習に取り組む
- ②中高生ボランティアが勉強のサポート（解き方や考え方を教える）
- ③中高生と遊ぶ（※体を動かすゲーム等で中高生と交流）

取組の事後

スタッフとして参加した中高生についても、低学年の子どもたちとの接し方や、話かけやすい雰囲気づくり方など、コミュニケーションの取り方を学ぶ機会につながっている。



丁寧に解き方を教える高校生



勉強の後は、紙コップタワー対決！

【今後の展開】 スタンプカードを配る等家庭で活用できる工夫をし、家庭でも継続して勉強に取り組める様な取り組みとしたい。

全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

平泉町 長島地区

長島小学校実践区

放課後子ども教室×地域行事連携学習プログラム 「平安スイーツを作ってみよう！」

【目的】

放課後子ども教室で、平安時代の「食」を通じて当時の文化や風習を体験的に学習し、地域への関心と理解を高める。また、学習した内容を子どもから家族に伝えるきっかけをつくり、学習意欲と家庭学習の充実を図る。

【参加者】

4～6年生の児童 20名
学校、地域住民（学習アドバイザー）

【成果】

平泉の歴史、世界文化遺産とその理念は、子どもが自らのアイデンティティを育む貴重な資源であり、それらとの連携によって、放課後における学習機会の拡充を図ることができた。

学習活動では子どもたちから積極的に質問が寄せられるなど、自分たちが住んでいる地域への関心と主体的に学習しようとする意欲が感じられ、地域住民との交流も深まった。

また、家庭で学習内容を共有することにより、家族が一緒になって学ぶ環境づくりにつながっている。

取組の内容

放課後子ども教室「長島ひかりフィールド」と平泉世界遺産の日「平和の祈り」の連携による学習プログラムの実施。

【放課後子ども教室「長島ひかりフィールド」】

食を通じた体験学習

講師：奈良女子大学 前川 佳代 先生、地域住民

- 平安時代の「食」と「暮らし」に関する講話
- 平安時代のお菓子づくり体験

【平和の祈り(毛越寺)】

参画意識を醸成し、地域行事への理解を深める。

- 行事への参加、作ったお菓子の奉納

取組の事後

【家庭における共有】

作ったお菓子は自宅に持ち帰り、学習した内容を子どもから家族に共有することで、家庭における学習の充実を図った。

学習の様子

【放課後子ども教室「長島ひかりフィールド」】



【平和の祈り(毛越寺)】

子どもたちが作り、奉納した平安時代のお菓子「粉熟」



【今後の展開】

平泉ならではの地域資源の活用に加え、新たに地域おこし協力隊との連携も検討し、地域との関わりや交流を深めながら子どもたちに多様な学びの機会を提供していく。

全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

陸前高田市

【放課後の学習会】

地域未来塾

【背景・目的】

学習意欲の向上と学習習慣の定着を目的に放課後に学校の教室や地区コミュニティセンターを利用し、学習会を開催している。

【実施体制】

全8小学校のうち6校実施（週1回）

参加者：全校（1校 約150名）

希望者（5校 合計約150名）

講師：地域在住の退職教員等の有償ボランティア

（1回につき2～10名程度）

【成果】

実施回数を重ねるごとに学習に集中して取り組む姿勢が高まり、学習意欲が向上している。また、講師は地域住民を主としており、児童と地域住民との交流も生まれている。

【取組内容】

【児童の動き】

- ①会場へ移動、学習会の準備
- ②学習会（30～60分）
 - ・宿題
 - ・課題プリント
 - ・音読
 - ・自主学习 など
- ③解散

【講師の動き】

- ①打合せ、課題の確認
- ②学習会
 - ・丸付け
 - ・解答方法の助言
 - ・音読の聞き手
 - ・学習方法の相談対応 など
- ③終了後、必要に応じて学校へ学習会の様子や内容についてのフィードバックを行う



【今後の展開】

講師であるボランティアを確保しつつ、実施回数の増加や新たな実施校を増やすよう取り組みの拡大を図りたい。

全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

釜石市教育振興運動協議会

大平地区実践協議会 大平中学校実践区

「情報モラル学習」と 「メディアコントロールの実践」

学力向上を目的として、望ましい学習習慣づくりの推進、家庭学習の充実を図るため実施するもの。

大平地区実践協議会内（大平中、平田小、白山小）の児童生徒及び保護者、教職員

【成果】

実践区3校が中学校の定期テストに合わせて取組期間を統一し、各家庭に協力を求めて実施した。それぞれの児童生徒や各家庭の実態を踏まえた目標を設定して取り組んだところ、徐々に目標のレベルを高く設定して取り組もうとする児童生徒が増えたり、家族も一緒になった団欒の時間を確保する家庭が増えたりした。

○情報モラル講演会（大平中）

講師：岩手県警察釜石警察署生活安全課

○メディアコントロールの実践（地区実践協議会合同）

実施期間：大平中定期テスト期間（年4回）

目標コース：

Aコース

→1日中「ノーメディア」で過ごす

Bコース

→メディア使用は1日30分以内にする

Cコース

→メディア使用は1日1時間以内にする



【実践カード】

【課題・今後の展開】

メディアコントロールの取組では、Aコース(1日中ノーメディアで過ごす)を選択する児童生徒は少なく、選択したとしても達成する児童生徒が少ない状況である。また、3日間完全に達成した児童生徒も多くはない。学校と家庭とで実態や課題を共有し、少しでも改善することができるよう、さらに工夫していく必要がある。

全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

宮古市 花輪中学校区

地域学校協働本部事業

講師を招いての放課後学習会

学習のつまづきに対する支援を行うとともに、家庭に帰ってからの学習につなげることができるように放課後学習会を実施した。

対象者：中学3年生 13名

《取組の内容》

- ①地域学校協働活動推進員が講師と学校をつなぎ、中学3年生を対象とした放課後学習会を企画
- ②放課後学習会を実施
 - ・数学を中心に基礎的な内容を学習
 - ・生徒の自学を基本とし、学習の進め方へのアドバイスを重視
 - ・家庭学習でくり返し学習
- ③次の学習会で前回の内容を確認

講師を招いての放課後学習会

期間：11月～1月、計20回



【成果】 ・家庭学習で何を勉強したらよいか、生徒が迷うことが少なくなった。
・帰宅してからすぐに復習するので、学習内容の定着率が向上した。

【今後の展開】 1・2年生の保護者からも放課後学習会の要望があり、来年度はすべての学年で実施したい。

全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

軽米町 晴山小学校

晴山小学校実践区

チャレンジウィーク 「家庭学習強化週間」

児童が計画的に家庭学習に取り組むために、「家庭学習の計画表」を作成し、実際に学習した時間を記入することで、家庭学習習慣の形成を図る。(6月・11月の実施)

対象者：3年生以上の児童、その保護者等 (約30名)

取組の内容

- ①授業参観後の懇談会で取組の説明
・「家庭学習のしおり」と見本ノートの配付、家庭学習ノートの展示
- ②一週間の計画づくり
・保護者・担任が計画内容の確認
- ③取組状況の確認
・毎日、保護者・担任が計画表に押印
- ④取組反省の記入

取組の事後

- ①取組状況のシェア〔通信等〕
- ②成果の確認
- ③取組の改善と2回目の取組

「家庭学習強化週間」

期間：令和7年6月20日(金)～令和6年6月25日(水)
令和7年11月25日(火)～令和7年12月1日(月)

3年生 名姓

家庭学習の計画表

学習のめあて
取りこみと早くする。

日	学習すること(予定)	学習した時間
11月25日(水)	国語→17 P82→10 アリス→21→15	37分
11月26日(木)	アリス→25 P43→5 アリス→21→10	36分
11月29日(日)	アリス→20 アリス→21→10	33分
11月29日(日)	アリス→20 アリス→21→10	33分
11月29日(日)	アリス→20 アリス→21→10	33分
11月30日(月)	アリス→20 アリス→21→10	67分
12月1日(火)	アリス→20 アリス→21→10	33分

今日のめあて
一応で苦手なところをがんばる。

日	学習時間	学習内容	学習時間	学習内容	学習時間	学習内容
11/25	4:50 5:30	国語 算数	40	国語 算数	40	国語 算数
11/26	5:30 6:10	国語 算数	40	国語 算数	40	国語 算数
11/29	5:30 6:30	国語 算数	90	国語 算数	90	国語 算数
11/30	5:30 6:30	国語 算数	95	国語 算数	95	国語 算数
12/1	5:30 6:30	国語 算数	7	国語 算数	7	国語 算数
12/1	5:30 6:30	国語 算数	5	国語 算数	5	国語 算数
12/1	5:30 6:30	国語 算数	40	国語 算数	40	国語 算数

今日のめあてのふりかえり
1日30分いじょうはできた

よくに2日と2週間目標したね、おめでとう！
また、おめでとう！
また、おめでとう！

土日も休みの日、時間 勉強する。
土日も休みの日、時間 勉強する。
土日も休みの日、時間 勉強する。

「家庭学習の計画表」を配布し、児童がそれぞれ目標を立てて、家庭学習に取り組んだ。

【成果】児童が計画的に家庭学習に取り組み、保護者の励ましもあって意欲の向上が見られた。家庭が学習を支える体制が強まり、保護者の働きかけが児童の意欲向上と計画的な家庭学習習慣の形成に効果的であった。

【課題や今後の展開】学校・家庭双方が無理なく継続しやすい仕組みづくりと、負担の少ない運営方法の検討が必要である。また、低学年の子どもが学ぶ楽しさを感じながら自主的に学習する習慣づくりも検討していきたい。

全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

【実践区名】

九戸村 九戸小学校区

【小中高生間の交流】

小学生の学習や体験をサポート

①冬休み中の家庭学習や体験活動を行う場として、冬休み九曜塾を開催。中学生がサポーターとして参加。

②小学生を対象に高校生読書会を開催。高校生が小学校を訪問し、紙芝居や昔遊びを通して交流した。

①対象者：小学生（九曜塾参加者）

参加者：中学生（サポーター）

②対象者：小学生（読書会申込者）

参加者：高校生（1・2学年全員）

【成果】

小中高生の交流する事業が少ない中、小学生が直接お兄さんお姉さんと交流し、学ぶことができる貴重な機会だった。

読書会に関しては高校主導で行っている事業であり、自作の紙芝居や、グループごとの遊びなど、高校生が直接計画し当日の運営も行うという、小学生にとっても高校生にとっても学びのある事業だった。

【3 取組内容】

取組の内容

①冬休み九曜塾において、中学生サポーターを募り、勉強の見守りや、体験活動のサポートを行う。

②放課後子ども教室の管轄で、高校生主導の高校生読書会を実施。高校生がグループに分かれ、小学生に対して紙芝居の読み聞かせや、カルタ、だるまさんが転んだなどの遊びを交流として行った。

取組の事後

開催内容を振り返り、反省事項について検討したうえで次年度も実施。



← 冬休み九曜塾の様子



← 高校生読書会の様子



【課題や今後の展開】

①、②と共通して、参加者が少ないことが課題といえる。

今後はサポートする側もモチベーションにつながるような事業内容にするよう見直しが必要。

全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

【実践区名】

一戸町/一戸南小学校区

【1 タイトル】

ボランティアによる家庭学習の協力

【2 背景・目的】

地域ボランティアが継続的に学習支援に関わることで、地域の教育力を高め、「地域の大人が地域の子どもを育てる」文化を醸成する。

【4 実施体制】

児童、地域ボランティア、公営塾

【5 成果】

教員以外の大人から励ましを受けることで、学習への前向きな姿勢が生まれ、「わからないところを質問できるようになった」などの変化が見られる。

【3 取組内容】



取組の内容

- ①地域ボランティアによる、ドリル学習・放課後学習の協力
- ②公営塾による学校外学習支援

【6 課題や今後の展開】

子どもによって理解度が大きく異なるため、個別の学習課題に十分寄り添いきれないことがある。

全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

岩手県立県南青少年の家

4泊5日程度の中期自然体験型の事業 「通学合宿」

日常の家庭生活とは切り離れた環境で、異なる学校・学年同士での共同生活や体験活動・学習活動を行い、人と関わる力や集団生活のマナー、基本的な生活習慣の育成を図る。

対象：金ヶ崎町立永岡小学校、西小学校、
第一小学校の5・6年生児童

定員：各校10名程度（計30名程度）

【取組内容】

- ・ 1日目 … アイスブレイク、学習時間、読書時間、ナイトハイク
- ・ 2日目 … 学習時間、読書時間、ネイチャーゲーム、グループレク、創作活動
- ・ 3日目 … 学習時間、読書時間、ファイナルパーティ（保護者参観可能日）
- ・ 4日目 … 清掃、退所点検、ふり返り

指導員が家庭学習のサポート、各プログラムを行いながら「ノーメディア」で4日間規則正しい生活を送った。



【成果】「友だちのために動いたり、自分から挑戦したりできるようになった」「寝起きがよくなった」「テレビやゲームがなくても、外で遊んだり何かを作ったりすることで楽しく過ごせた」等のふり返りが多数見られた。ノーメディアで人と関わる時間が増えたことによるプラスの効果や自己変容が見られた。金ヶ崎中学校に入学する小規模校の高学年が共同生活を行うことにより、中1ギャップの解消、人間関係作りのためにも本事業は大変有効である。

【課題や今後の展開】

本来であれば町内5校での実施が望ましい。中1ギャップの解消、人間関係作りのためにも本事業は大変有効であることから、対象校ではない小学校への意識調査はもちろん、将来的にモデルケースとして他市町への拡充を考え、県教育委員会や町教育委員会への連携及び支援要請を強化していく。

全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

陸中海岸青少年の家

「家庭学習の充実」の下支え

家庭学習の充実に資する家庭の環境づくりを目的として取り組んだものであること。

対象：主催事業参加親子
出前講座利用団体親子

○家庭教育のすすめ

親子参加型事業を絶好の機会と捉え、親子の交流及びかかわり方等について考えたり振り返ったりしていただく場面を設定した（家庭教育ミニ講座を含む）。また、親子の活動を主とした出前講座の際には、教育振興運動の課題内容について周知を図るよう努めた。

○生涯学習推進センター事業の紹介

センター発行チラシを配布し、「すこやか電話相談」「すこやかメール相談」「すこやかメールマガジン」を紹介した。また、「すこやかメールマガジン」の内容を印刷し、読み上げたうえで資料として配布する等を実施した。



【成果】

- ・各事業を通じ、教育振興運動の推進及び全県共通課題への取組について、周知及び啓発することができた。
- ・保護者を対象とし、子ども達の学習（学び）の基盤となる家庭教育について考えていただくことができた。概ね好評であった。

【課題や今後の展開】

- ・継続的に取り組むための予算確保
- ・今後も、可能な範囲で共通課題に取り組むものであること。

全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

県北青少年の家

【1 タイトル】

体験活動と子育てのワークショップ

【2 背景・目的】

親や子育て関係者が、ワークショップによる親和的な雰囲気の中で、五感が動く体験と学習の関係を明らかにするとともに、生活体験の充実と学習環境のあり方について考える。

【4 実施体制】

保護者、PTA、子育て関係者、学校、教育委員会等

【5 成果】

体験活動の充実が子どもの学ぶ力を伸ばすことや、家庭での学習環境の整え方の理解が深まった。
ワークショップにより、子育ての悩みを保護者が気軽に出し合い共感し、意識や関心が高まった。

【3 取組内容】

○主催事業「親子でデイキャンプ」～おしゃべりティータイム～
親子で気軽に日帰りキャンプを楽しむ趣旨で開催した。

たき火や野外調理を楽しんだ後、子どもたちは指導員が森の冒険に連れ出し、保護者はお茶やお菓子を用意した会場で「子育てと体験活動」についての講話とワークショップを行った。

内容 アイスブレイク（グループ作りとおしゃべりゲーム）

講話 五感を耕す体験活動（ネイチャーゲーム、森のようちえん）
脳の仕組み（感覚が学ぶ力を伸ばす）

家庭の学習環境づくり、メディアと脳のはたらき

ワークショップ「宵活のススメ」～家庭で日常的に体験活動を楽しむために

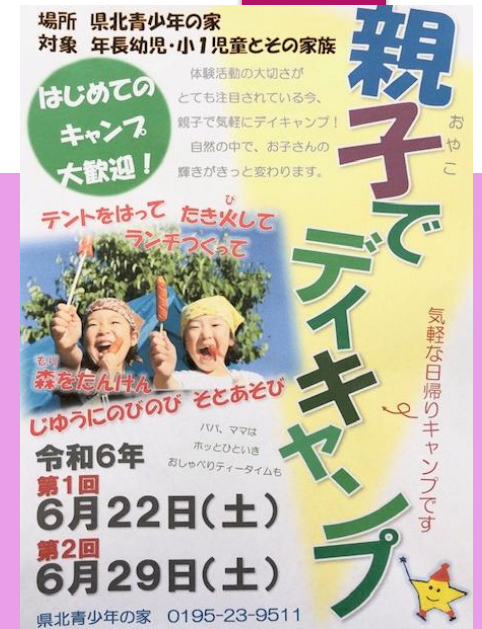
○出前講座「子育てと体験活動」「宵活のススメ」講話・ワークショップ
教育振興運動集約集会・研修会、地区懇談会、PTA研修会、子育て講話
などから要請を受け実施した。

☆ポイント 五感を働かせること 家族の温かさを感じながら勉強すること

【6 課題や今後の展開】

出前講座の講話、ワークショップの機会を広げる。

一度行ったところには、ステップアップした内容で実施する。



全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

県北青少年の家

【1 タイトル】

長期休みの宿題をがんばりたい子を応援する

夏休み・冬休みしゅくだいバス

【2 背景・目的】

子どもの居場所づくりプロジェクトの一環として、長期休み中の子どもたちをそれぞれの学校や地域からバスで迎え、宿題をさせるという事業である。学校を離れても勉強をがんばる意欲付けになり、少しでも学びの自立につながることを願い実施した。

【4 実施体制】

児童、家庭、学校、学童クラブ、市町村教委等

【5 成果】

「宿題がどんどん進んだ。」との感想が毎回聞かれ、家でも褒められるとのことである。この事業をきっかけに、家庭でも学習について肯定的な話題が交わされていると想像され、子どもの学習意欲の向上と家庭の学習環境づくりに役立っている。

【3 取組内容】

「夏休み・冬休みの宿題をがんばりたい子を応援します！」をキャッチコピーに、二戸管内を6ルートに分けてバスで子どもたちを集め、学習会を行った。

どの子も一生懸命勉強をがんばり、指導員は机を回って教えたり励ましたりする。

途中に、お楽しみの工作やプラネタリウム鑑賞を行い気分転換する。昼食には「しゅくだいカレー」をもりもり食べ、休憩時間には思い切り遊んで、元気いっぱい過ごしていく。

子どもたちはとても楽しみにしており、リピーターが多い。保護者や学童クラブ、学校からも大変好評である。



【6 課題や今後の展開】

バスの送迎の都合により、参加できる子が二戸地域に限られている。また、各地区1回しか実施できない。

市町村と連携し、共同事業としてそれぞれのバスで送迎してもらえば、久慈地域からの参加や回数を増やすことも可能になる。

全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

岩手県立野外活動センター

主催事業

「通学宿泊合宿」

【目的】

日常の家庭生活と切り離れた環境での共同生活や体験活動・学習活動を行い、基本的な生活習慣の向上を図る。

【参加者（任意：希望者全員受入）】

高田東中学校区の陸前高田市立広田小学校、小友小学校、米崎小学校の6学年児童（対象全57名中31名参加）

【成果（参加児童の感想）】

- ・ 家ではテレビを見ながら宿題をやって全然はかどらないけど、みんなと一緒に楽しく真剣にできてよかった。
- ・ メディアがなくても、友達がいれば楽しく生活できると思った。

【取組内容】

野外活動センターで3泊4日共同生活し、センターから登下校



毎日1時間の「学習タイム」では、岩手県教育委員会事務局、陸前高田市教育委員会、沿岸南部教育事務所等から多くの方にご協力いただき、児童の学習支援にあたった



「夜の集い」で日替わり体験活動

【1日目】レクリエーション

【2日目】創作活動
(星空ジオラマづくり)

【3日目】ニュースポーツ体験（ボッチャ）



【課題】

- ・ 学習タイム対応の人員確保
- ・ 学校ごとの学習内容や課題の量の差
- ・ スポーツ少年団等の活動での外出、途中参加への対応

全県共通課題「家庭学習の充実」実践事例

【公所名】

県立図書館

【タイトル】

フリースクール・放課後児童クラブへのセット貸出

【目的】

様々な理由で学校に行けない子供達や保護者が仕事などで日中家庭にいない小学生に、読書をする環境を提供するもの

【対象者】

県内のフリースクールや放課後児童クラブ

【取組内容】

- 昨年8月から始めたサービスであり、各団体からの要望をお聞きし、県立図書館の本をまとめて貸し出すもの
- 図書は、①各団体で来館の上直接選書 又は②各団体の要望を踏まえ県立図書館で選書
- 貸出冊数は無制限
- 貸出期間は6か月まで
- 県立図書館で図書の送料往復負担（無料）

岩手県立図書館

フリースクール・放課後児童クラブ セット貸出

図書館の本をまとめて借りるサービスです。学習や学級文庫などに利用できます！まずは、担当までご相談ください。



冊数 制限なし

期間 6か月まで

図書館が送料往復負担 送料無料

ステップ1 団体登録
HPより「団体登録申込書」をダウンロード。メールまたはFAXでお送りください。

ステップ2 貸出申込
下記お問合せ先までご連絡ください。

ステップ3 受取
図書館から無料発送。または、来館して受け取り。

申し込みときに決めること 期間 冊数 対象学年 内容 *冊数が選ぶかご自身で選ぶか

お問合せ先：岩手県立図書館【担当】サービス部
TEL:019-606-1730 FAX:019-606-1731
MAIL:lrroom@library.pref.iwate.jp

【令和7年度実績（令和7年12月末日現在）】

2件（フリースクール）

【今後の展開】

各団体からの問い合わせはあるものの、実績が少ないことから、引き続き、周知を図っていく。